



一般財団法人光産業技術振興協会  
専務理事 小谷 泰久

新年、明けましておめでとうございます。

さて、本年は昨年に引き続き、成長戦略を実施し日本経済を発展させていく重要な年になることが予想されます。その中で光技術には、最近話題として取り上げられることの多い IOT、ロボット技術の進展に不可欠なイメージセンサなどの各種センサや光情報通信システム、インダストリー 4.0 など新製造技術で活用される光加工・計測・通信システム、自動運転の基盤技術である高速カメラや次世代ディスプレイ、医療・健康技術に資するバイオセンサや高速画像処理システム、エネルギー政策の柱である太陽光発電、LED 照明など重要なキーテクノロジーが多く含まれています。

光協会では、これらの技術に関する研究開発戦略、事業化戦略の策定を事業の第一プライオリティとし、5 年前から 2030 年代をターゲットとして情報処理フォトニクス、安全安心フォトニクス、光ユーザインタフェース、光情報通信、光加工・計測のロードマップを作成してきました。また、昨年は NEDO の委託を受け光電子集積技術のロードマップの作成を行いました。本年 2 月 3 日にリーガロイヤルホテルで開催する光産業技術シンポジウムでは、光加工・計測と光電子集積技術のロードマップについて発表する予定です。さらに、情報処理フォトニクスロードマップに基づき立案され、経済産業省の国家プロジェクトとして推進されている「超低消費電力型光エレクトロニクス実装システムプロジェクト」も順調に研究開発が進み、現在実用化に向けた取り組みが行われています。一方、標準化に関しては、11 月末にレーザの国際標準化を行っている ISO/TC 172/SC 9 会合を岡山県倉敷市に於いて開催の予定です。光協会は活発な議論と情報交換を通じ、我が国の国際標準化活動を効果的に支援したいと思いをします。

また、本年も引き続き将来の光産業の発展のために、データセンタ向け高速光スイッチシステムの開発などプロジェクト立案に向けての FS (Feasibility Study)、光技術の応用分野についての技術戦略策定、光産業・光技術動向等各種調査、標準化事業や基準認証研究開発、シンポジウムや研究会などの普及啓発事業を実施して参ります。より一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様方のご発展、ご健勝を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。